

会 議 録 (概要)

会議の名称	令和5年度 第3回佐渡市公共施設あり方検討会議
開催日時	令和5年7月14日(金) 19:00~21:00
場所	赤泊総合文化会館 3階 多目的ホール
会議内容	<p>1 開会</p> <p>2 議事</p> <p>1) 財産分類(会館等)の方向性検討</p> <p>① 資料及び施設に関する説明</p> <p>② グループワーク</p> <p>2) その他</p> <p>3 閉会</p>
会議の公開・非公開 (非公開とした場合は、その理由)	公開
出席者	<p>《公共施設あり方検討委員》(13名)</p> <p>《市役所》(7名)</p> <p>・事務局 財産管理課長 齊藤 昌彦          財産管理課課長補佐 若林 昭宏          財産管理課公共施設適正化推進係主任 中川 英幸</p> <p>・オブザーバー</p> <p>農林水産部農業政策課          社会福祉部高齢福祉課          教育委員会社会教育課</p>
会議資料	別紙のとおり
傍聴人の数	1人
備考	

会議の概要（発言の要旨）	
発言者	議題・発言・結果等
事務局	<p>1 開会 （開会宣言）</p> <p>2 議事 1) 財産分類（会館等）の方向性検討 （資料 01 により説明）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・グループワークで行う 3 つの議論について説明。 <ul style="list-style-type: none"> <li>I 施設の選別</li> <li>II 30%削減プランで生じうる課題</li> <li>III 課題を克服するための改善策</li> </ul> </li> <li>・発表、共有後、意見交換のうえ取りまとめ。</li> </ul>
事務局	<p>○施設の説明 （財産管理課）</p> <p>1 佐渡島開発総合センター(教育委員会)</p> <p>3 相川自然休養村管理センター（高千出張所）</p> <p>17 松ヶ崎総合センター（松ヶ崎出張所）</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・いずれも庁舎として使用しており、引き続き使っていく方向性。</li> <li>・相川自然休養村管理センターは築年数が相当経過し、潮風など環境も悪く非常に劣化している。安全性の確認ができなくなったら使用を中止し、新しい庁舎を探す方向性で考えている。</li> </ul>
農業政策課	<p>（農業政策課）</p> <p>5 大佐渡交流活性化センター</p> <p>8 中興資源活性化センター</p> <p>12 金井就業改善センター</p> <p>14 新穂就業改善センター</p> <p>16 畑野就業改善センター</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・金井、畑野の就業センターは既に会館等の活用実績は乏しく、財源が確保できれば畑野と金井の就業センターは、解体も視野に入れるべきと考えている。</li> <li>・新穂の就業センターが地元開放等で活用されているが、老朽化が著しい施設。</li> <li>・2つの活性化センターは、いずれも温泉入浴施設に隣接している。市町村合併前に温泉入浴客にも活用いただく目的で設置した施設。</li> <li>・金井は社会福祉協議会の施設が隣接しており、主に高齢者の健康教室で活用、佐和田も一般の健康教室で活用されている。所管施設の中でも利用率が高い位置付けであり、建築年も新し目であることから現状維持の方向性と考えている。</li> </ul>

社会教育課

(社会教育課)

- 2 あいかわ開発総合センター ※公民館
- 4 佐渡中央文化会館（アミューズメント佐渡） ※文化会館
- 6 佐渡離島開発総合センター佐渡中央会館 ※公民館
- 7 【旧】佐渡中央会館圏民センター（佐和田児童クラブ・さわた子育て支援センター）
- 9 金井西部地区コミュニティセンター（能楽堂） ※文化会館
- 11 金井コミュニティセンター ※公民館
- 16 畑野農村環境改善センター ※公民館
- 18 真野ふるさと会館 ※公民館
- 20 羽茂農村環境改善センター ※公民館
- 21 赤泊総合文化会館 ※公民館

- ・全9施設のうち7施設は地区の公民館機能を有する施設。主な利用として、公民館自主講座の登録団体の活動、講座、高齢者学級、家庭教育学級、健診の会場として利用。
- ・相川開発総合センターは冷暖房の設備や排煙装置、雨漏り、外壁の剥がれ等が出ている状況。
- ・佐渡中央会館は冷暖房設備等の改修が必要な状態。
- ・金井コミュニティセンターは屋根、壁面の経年劣化が進行。
- ・畑野農村環境改善センターは全体的に劣化が見られている状況。
- ・真野ふるさと会館は雨漏り、外壁の劣化で改修が必要な状況。
- ・羽茂農村環境改善センターは雨漏り、空調設備の更新が必要な状況。
- ・赤泊総合文化会館は雨漏り、壁紙の剥がれが出ている状況。
- ・アミューズメント佐渡は市内最大の複合文化施設で、色々なイベント、講演ライブ等の実施会場として活用。使用目標年数を2054年までとして、天井、外壁、屋根、トイレ等の大規模な改修工事を令和元年から3年に実施。
- ・能楽堂は文化関係のイベントで活用している施設。令和2年度に冷暖房設備の改修工事を行っているが、経年劣化が進行しているような状況。

高齢福祉課

(高齢福祉課)

- 13 新穂老人趣味の家
- 19 小木多目的集会施設（あゆす会館）
- ・新穂老人趣味の家は、特定の団体のみが使用。水道、電気は止めており維持管理費用はかかっていない。安全に使用可能であるうちは使用を継続し、今後、団体への譲渡や廃止も検討している。
- ・小木多目的集会施設（あゆす会館）は、地域の会議、芸能の練習、介護予防教室、検診などで利用されている。小木唯一のホール機能がある施設。
- ・一般利用以外に小木行政サービスセンターの交流拠点化事業として、あゆす会館解放事業やこいっちゃん広場というイベントを実施し、地域の活動の拠点として利用状況の活性化にも取り組んでいる。

○グループワーク

- I. 施設の選別
- II. 30%削減プランで生じうる課題
- III. 課題を克服するための改善策
- IV. 各班の検討内容発表

(A班)

- ・延床面積 13%の削減
- ・施設の事情を聴くと現実的に絞りにくく、削減しにくかった。
- ・老朽化が課題で維持も困難であり、譲渡するにも受取り手があるのか疑問。
- ・公民館自主講座は利用料が安く、維持のために利用料の調整が必要。
- ・国中に施設を集約して綺麗にし、利用料も上がるが魅力を上げる。
- ・新穂老人趣味の家のように維持費がかからないものは、壊れるまでは自主管理とする。

(B班)

- ・延床面積 30.6%の削減。
- ・行政庁舎関係は残す必要があると判断。
- ・基本的に集約、譲渡、廃止で考え、旧市町村に1つずつではなく、近隣で集約できないかと考えた。特に国仲で集約・廃止し、周辺地域は残して充実させる。
- ・施設名称に旧市町村名が入っていると、他地区の人が利用しにくいことも考えられるので、名称の旧市町村名を変えたらどうかとの意見が出た。
- ・相川休養村管理センターは、周辺施設へ行政機能を複合化する。
- ・金井東部コミュニティセンターは、主に地元のみ利用するため、地元へ譲渡がよいのでは。
- ・大佐渡交流活性化センターと佐渡中央会館には調理室があるので、廃止すると困るかと思うので、他の施設を改修、増築する際に調理室を追加し集約・複合化する。
- ・近隣の地区と統合すると地域性が薄れてしまう課題が大きい。
- ・市民、行政が使用していない施設は優先的に廃止を考える。施設に入っている団体事務所の場所が失われる課題はあるが、譲渡または別施設など別途考える。

座長

名前を変える時に、防衛省関連や農業関連等で制約があるのではないか。

事務局

正式名称でなく愛称の変更で対応が可能。

A委員

公民館活動で広域に利用することになると、逆に人数が増えて交流も増え、活発になる良い面もあるのではないか。  
フレイルな高齢者が集まる会合など、会場までの足の問題は出てくる。

(C班)

- ・延床面積 40.3%の削減
- ・行政機能は気にせず、利用状況と近隣の代替え施設を踏まえて分け。
- ・畑野農村環境改善センターは維持費が大きい。若者が 20 年後に欲しいと思う施設か考え判断した。
- ・能楽堂は佐渡の文化的に残した。
- ・佐和田に子育ての支援拠点が無くなるが、佐和田行政サービスセンターへの子育て支援機能の複合化、学校の空き教室を有効活用する。
- ・松ヶ崎と高千に行政機能が無くなるが、I C Tの活用(自宅で行政手続等、他)することで、連絡所を残すよりサービス向上するのではないか。
- ・畑野と小木はホール機能が無くなるが、近隣の学校やB & G体育館を代用。
- ・10 年後のモビリティの発展を考え、移動距離のカバーが可能かと思う。

B委員

南部地区の大きな建物が赤泊だけになるが、ここに全部集約するのか。

C委員

恐らく大体の利用者は車で走っていると思う。例えばアミューズメント佐渡でコンサートがあれば、皆車で行くだろう。また、その他を切り捨てるだけでなくモビリティで頑張ってサービスを維持する余地もある。

D委員

B班でも、近くの施設を利用する際でも車で移動していると話が出た。

アドバイザー

A班は減らすことが難しいという議論で、残りの2班は逆に思い切って減らすという結果、本当に両極端が出た印象。その中で施設の名前を変えるというのは良いアイデアだ。特に地域性が大事で、旧市町村を配慮しなければならないということがあるが、その枠組みを外して新たな広域の枠組みを考えるきっかけにもなるのではないか。

今回、庁舎と複合している施設は減らせないという前提条件になっていたが、I C Tが発展していけば、庁舎の現数を維持する必要がなくなってくる。そうすると併せて会館機能も整理していける可能性があると感じた。

島の中でも周辺部はある程度効率が悪くても施設を残さなくてはいけないと思っていたが、意外とそれを削減する議論があったので、そこは外から見る視点と、中の人で感じる感覚で違うところがあると感じた。

行政だけではなかなか出てこない意見がたくさん出ており、たいへん良いワークショップであった。

2) その他

次回の会議日程について

- ・9月12日18時30分開催で調整していく。
- ・次回の最初に会館等の議論のまとめをやりたい。

3 閉会

(齊藤財産管理課長より閉会の挨拶)